卒業生×在校生 職業対談



アジア発の名品コンテンツを世界へ届けることを目指し、挑戦を続けているK-POP事務所。

CUBE ENTERTAINMENT

CUBE ENTERTAINMENT

潜在力ある人材を発掘し、専門的なトレーニングで実力と人間性を備えたアーティストへ育成するエンターテインメント企業。i-dle(아이들)、LIGHTSUMなど多様なアーティストを輩出し、企画・制作・プロモーションを各分野の専門家が担当する。常に新しいコンテンツを創出し、国内外で高い評価を受けている。

好きな道を走り続けた先に チャンスは存在する

学生：第一線で活躍するアイドルやダンサーの方とお仕事をされて、どこに一番魅力感じられますか？

イェウン：映像で見ていても魅力的だと思いますが、実際に会社などで会うと礼儀正しくて、人としての魅力も感じます。バックダンサーと歌手は、別の職業ですが、両方共通して言えるのは、人として感謝の表現をたくさん持っている人は素敵ですよね。

ソク：皆さんにも、アーティストを好きになったきっかけって、それぞれありますよね？　それは、大きく分けて２種類あると思います。まずは、ルックスやスキルも含めて、「絶対にこの人みたいになりたい」という憧れ。もうひとつは、「私も同じ経験をしている」とか、今感じていることが歌詞とリンクして、共感をする経験。そのどちらかになれるように意識をして考えてみてください。

学生：業界において、韓国のシステムと日本のシステムの大きな違いはどこにあるのでしょうか。

ソク：まずは、音楽番組の数が違います。韓国では、生放送がほぼ毎日あります。なので、そもそも日本より韓国のほうが、バックダンサーが出演し活躍出来る場が多いのです。

イェウン：韓国で活動をしたいのであれば、踊るだけではなく振りを付ける力も持っていなければいけません。日本ではあまりいないのかもしれませんが、韓国では、振付師として振りをつけながらバックダンサーとしても踊るという方が多いです。それから、実は今まで日本人として韓国で本格的に活動するのには、練習生としてやデビューをしていないとなかなかビザがおりませんでした。それが先日、歴史上初めて日本人のバックダンサーの方にビザがおりたんです。それは簡単なことではなくて、ご本人の相当な努力の上に成り立っていますが、韓国でバックダンサーになる夢を持っている人には道が開けたということがお伝え出来て、私としてはとても嬉しいニュースでした。

パフォーマンスのために 曲を理解して詞に共感をする

学生：振りを作る時に意識していることはありますか。

イェウン：曲のニュアンスを理解するのが、1番大切です。自分の好きなジャンル以外の曲もたくさん聞いてください。そして、その曲と仲良くなるのが1番だと思います。

学生：私は、自分のダンスに自信がなくなったりすることがあります。その時にどのように自分をコントロールすればよいのか、教えてください。

イェウン：私も、誰かと比べてしまって自信が無くなる時は、もちろんあります。そんな時は、自信が持てるまでこっそり練習をします。それから、見た目を変えて気分を変えたりすることもありますよ。髪型や服の雰囲気をちょっと変えると、鏡を見た時に新鮮な気持ちになって、自信を高く持てたりするのでオススメです。それから、まずは自分が自信を持てるダンスジャンルを探すことも重要で、このジャンルなら私みたいな、そんなイメージをまず持てるよう意識してください。

学生：ダンスを続けるうえで、怪我は切っても切れない関係だと思います。もし怪我をしてしまったら、どのように過ごせばよいでしょうか？

イェウン：怪我をした時は無理せずにしっかり休んで治すべきですが、私自身は、怪我をしている間に休んでいるといった感覚を持ったことはありません。例えば怪我をしていても、動画は見られますよね。過去の自分のダンス動画をじっくり研究することも、最近流行っている動画を見て研究することも出来ます。足を怪我しているのなら、Instagramリールや TikTokで使えるような、手の振りを中心にしたダンスを考えたりするのも良いと思います。

学生：私は自分で振りを作るのに苦手意識がありまして、どこから考えていったらいいのかが分からなくなることがあります。

イェウン：そこに関しては、全然心配しなくてもいいと思います。最近では、１人が１曲の振りを丸ごと考えるのではなく、いろんな人の振りを組み合わせることが多いので。私も1曲中で、5秒だけ採用されたり、１ポーズだけ採用されたりもしました。

学生：振りを考えるコツはありますか？

イェウン：まずは、歌詞の内容を理解した上で作り始めます。アイドルに振付を作る時は、真似が出来やすそうな感じの跳ねるリズムを意識します。ダンサーに振りを作る時は、ちょっとみんなが聞きづらいかもしれないけれど、私がその曲に対して一番感じる音を意識して作っています。

学生：体力作りのための、毎日のルーティーンがあれば教えてください。



副校長
ソク・ウンジェ氏

約20年間にわたりYGエンターテインメントに勤務。オーディションキャスティングチームのリーダーとしては、ボーイズグループ「TREASURE」のヨシ、アサヒ、ハルトやガールズグループ「BABYMONSTER」のルカ、アサを直接発掘しデビューまで繋げた実績を持つ。



ダンサー
卒業生 ソン・イェウン氏

DATOKYO卒業後、有名ダンススタジオでK-POPダンストレーナーとして活躍。その後韓国へ渡り、K-POPアイドルi-dle(아이들)の専属バックダンサーとして活動し、MAMA AWARDS、KGMA、歌謡大祝祭、歌謡大祭典、さらにはWORLD TOURでもバックダンサーを務めている。

イェウン：確かに、ツアー中に1番大切なのは、体力です。何十曲も踊っていると自然と体力がついたりはしますが、特にツアーがスタートする1ヶ月前からは、集合時間より3時間程前から、腹筋などの基礎準備を自主的にします。それから、食事にも気を配ります。皆さん、ダイエットもしているので、少ない量で栄養が摂れるような食事を意識していますね。

良く見せようとするのではなく 自分の中の可能性を意識して

学生：最近では、デビューする子たちの低年齢化が進んでいると思いますが、年齢で諦めないといけなかったりしますか？

ソク：低年齢化は事実としてありますが、グループを作る際に、完成している子を探したりもするので、そうなると年齢が上でも可能性はあります。それから、女子に関して言うと、デビューを目指す子の母数自体が上がっているので、より激戦であるのは確かです。ただ、だからといって完全に無理ですかというと、それは言い切れません。私が思うのは、自分が人生の中で音楽が好きで、音楽を仕事にしたいという思いがあれば、練習生になって会社に必ず入ることだけに執着しないでいて欲しいのです。オーディションでデビューを目指すだけが方法じゃないと思うので、とにかく諦めないで続けてください。

学生：オーディションでの短い30秒という時間では、何を一番に考えてパフォーマンスをすれば良いでしょうか。

ソク：オーディションでは、完成している人を探しているのではなく、可能性がある子を探しています。なので、例えば声がいいとか、音程とリズム感が合っているところが伝えられれば大丈夫。ダンスに関しても、会社側が「この子にどんなトレーニングをすれば伸びるのだろうか」という基準で選ぶので、体の使い方を理解していることが分かるような見せ方が出来れば良いと思います。

学生：自信を持つことは大切だと思うのですが、オーディションでは、それをどこまで見せてもいいのでしょうか。

ソク：自信を持つのと、ナルシストになるのでは大きな違いがあります。そこで絶対に必要なのは、礼儀正しくいること。そうすれば、どんなに攻めたパフォーマンスでも、プラスに見えるので。

学生：イェウンさんが在校中に、一番学んでおいて良かったことは何ですか？

イェウン：学校のシステムの中で作品を作る機会があれば、全てに挑戦をしてほしいです。私も今振り返ると、もっと積極的になればよかったなとか思いますが、２年間って本当にあっという間だったんですよね。皆さんは3年や4年と、より時間があると思います。ひとつひとつ集中をしてやってみることは、確実に自分の財産になるので。ぜひ、その時間を充実させて頑張ってください。

――最後にこれからこの学校の入学を考える方達にひとことお願いします。

イェウン：やっぱり1人だと、どこから始めてどうやっていくのが正しいのか、選択肢がたくさんあるので、すごく難しいなと思います。学校では、その選択肢も増えるし、その選択をするときにアドバイスもしてもらうことができます。興味があるなら、ぜひ安心して飛びこんでください！

ソク：最初は誰でも、漠然とした憧れから始まると思います。本当に自分が将来は何をやりたいのか、自分と会話をする時間は、ぜひ一度持ってみてください。学校には、サポートしてくれる先生やトレーナー、同じ志を持つ仲間もいます。その環境の中で学びながら、ひとつではない答えを一緒に見つけられると嬉しいです。

